

まちのあかりのガイドライン

(南京町地区)

～夜間景観づくりにむけて～

Ver.1.0



2016年11月

南京町景観形成協議会

はじめに

私達のまち南京町は、神戸港開港とともに中国系在留民の居住地として形成され、古くから中国雑貨・飲食店・食料品店などが軒を連ね、異国情緒あふれる品々の並ぶ個性的な商店街として発展してきました。

平成2年、神戸のシンボルにふさわしい景観形成を図るため、神戸市都市景観条例に基づく南京町沿道景観形成地区の指定を受けるとともに、翌年7月、景観形成市民団体として南京町景観形成協議会が認定され、市をはじめ関係機関の支援のもと、街路・広場の整備や楼門・あづまやの建設等さまざまな環境整備事業に取り組んできました。

その結果、この町の個性がさらに伸され「デザイン都市・神戸」のシンボルふさわしい活気あふれる都心商業地になりました。しかし、日中は多くの来訪者でにぎわいますが、メインストリート沿いの店舗の営業終了後の夜間には、地域そのものが暗くさびしい環境となり、まちのにぎわいが大きく低下してしまいます。

今神戸市では、都心・ウォーターフロントエリアにおいて、神戸らしい夜間景観にさらにみがきをかけ、都市ブランド力を高める取り組みが進んでいます。南京町においても、地域が一体となった中国風情緒あふれる夜間景観を形成し、地域の魅力をさらに高めていくことが求められるのではないかと考えます。

そこで、南京町らしい夜間景観のあり方やつくり方を「まちのあかりのガイドライン」として示し、このガイドラインに配慮した景観が作られることで、これからの私達のまち南京町がより個性的でにぎわいあふれる町となることを願っています。

目次

1. 光の取り組みについて
 - 1) 神戸市夜間景観形成実施計画の概要
 - 2) 光の7つの原則
2. 南京町地区でのガイドライン
 - 1) ガイドラインの位置づけ
 - 2) 基本目標
 - 3) 適用区域
 - 4) エリアの構成
 - 5) ガイドライン項目、エリア毎の演出イメージと適応例
 - 6) 今後の検討事項（公共照明に関する要望）
 - 7) 演出イメージ
 - 8) 共通アイテムの検討アイデア
3. ガイドラインに係る協議の手続き
4. 南京町景観形成協議会の紹介

1. 光の取り組みについて

1) 神戸市夜間景観形成実施計画の概要

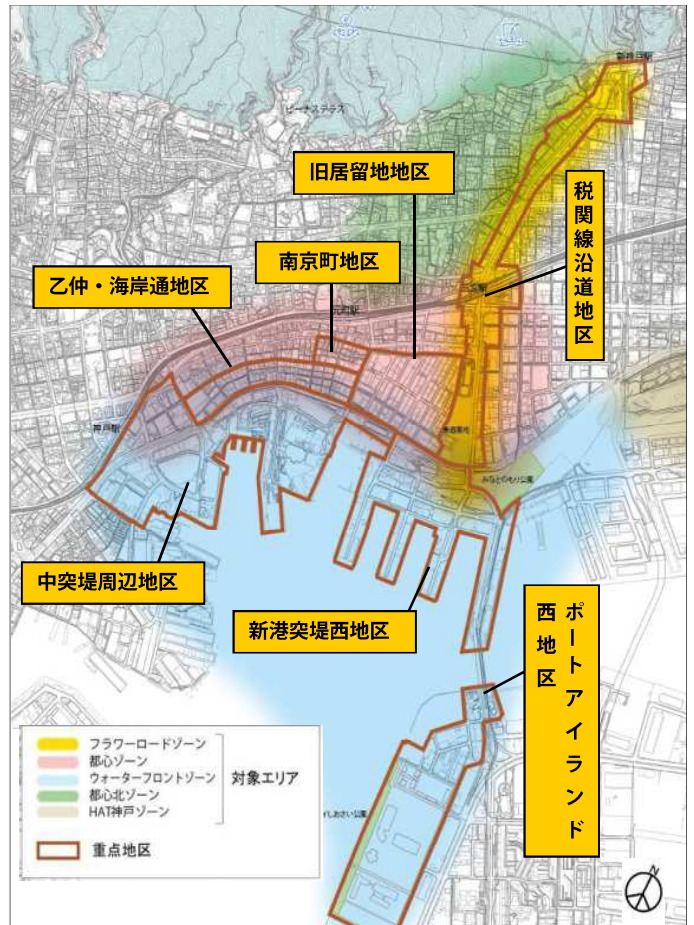
基本的な考え方

神戸市は、神戸らしい夜間景観にさらにみぎをかけ、「デザイン都市・神戸」の都市ブランド力を高めるため、優先地区を選定し、重点的に取り組むハード・ソフト・しくみづくりでの具体的施策をまとめた実施計画を平成24年3月に策定しました。

「夜間景観形成基本計画」(平成16年3月策定)の地区別実施計画として、都心・ウォーターフロントエリアが対象です。

市民・事業者・大学等・行政が連携した取り組みを進めていき、「滞在型観光の促進」や「産業・文化の振興」にも寄与していくこととしています。

対象エリア：都心ウォーターフロントエリア
重点地区（7地区）



空間づくりのテーマ

① 光の質の向上

地域特性に応じた「光のコンセプト」を設定し、既存の資源を活かす照明整備や、ライトアップ施設のリニューアルなど、一つ一つの光の質を高める光の演出を行います。

② 引き算のデザイン

まぶしすぎる照明などへの輝度の抑制や回転灯の禁止など、不要な光を無くし、主役を引き立たせるような光の整理を行います。

③ 環境への配慮

街路灯のLED化などにより消費電力の削減を進め、地球にやさしい光環境を創造します。

具体的施策（南京町地区）

ハード施策

南京町広場での光の演出



ランタンや建物頂部を活用した演出 (イメージ)

南京町地区の中心である南京町広場では、イベント時に吊り下げているランタンやスポットライトのLED化・常設化など、夜間の華やいだ雰囲気を演出するためのさらなる魅力アップを進めます。

ソフト施策

店舗と連携した活気あふれる賑わいづくり



夜間イベントの促進(夜光龍)

ゆっくりと夜のまちを楽しんでもらえるよう、飲食店や物販店への営業時間延長への働きかけを行うほか、南京町広場でのナイトマーケットの促進など、さらなる賑わいづくりを進めます。

しくみづくり

『光のコンセプト』に沿った地区毎の特色ある夜間景観の形成に向け、景観誘導の手法や「引き算のデザイン」などテーマを反映した具体的な内容、その運用方法などについて、検討。

事業の具体化に向けて

実施計画推進委員会で事業の具体化に向けた検討、調整、推進

地域団体・事業者と連携した取り組み



2) 光の7つの原則

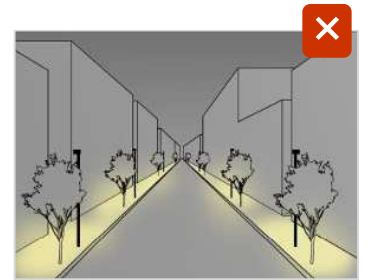
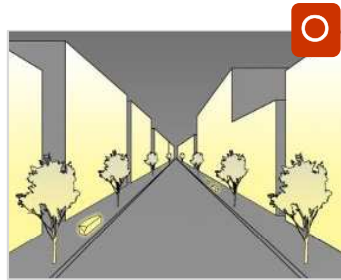
これからの都市照明には光の品質に関わる7つの重大な原則があります。バランスの良い夜間景観を具体化するためには、一般的に以下の原則に沿って計画することが大切です。

- ① 鉛直面の輝度を重視する : 少ないエネルギーで街に明るさ感を与える
- ② グレアフリー : 目に優しい景色をつくる
- ③ 最適な色温度 : 安らぎと緊張感を演出する
- ④ 高い演色性 : 人や緑を美しくみせる
- ⑤ 快適な陰影 : リズミカルな明るさを分布させる
- ⑥ オペレーション : 夜景も刻々と変化する
- ⑦ 適正照度 : 効率的に明るさを確保する

これらの原則のうち南京町のような「にぎわいエリア」で良い夜間景観を実現していくためには、①③⑤の3つが特に重要になります。

①鉛直面の輝度を重視する

同じ光の量でも、床面に当てるより、壁面に当てるほうが、明るく感じます。つまり、壁面の明るさを重視して配灯したほうが電力を少なくでき、省エネにもつながり、かつ明るさを感じるようになります。



③最適な色温度

色温度とは光の色味の度合いのことを言います。色温度が高いと白っぽい冷たい光の色になり、色温度が低いと黄色っぽい温かい光の色になります。色温度のコントロールの方法で都市の夜間景観は大きく変わります。「買い物」「デート」「夜の飲食」など活動に応じて望ましい色温度を設定するのがよいでしょう。



⑤快適な陰影

光の配置は空間イメージを大きく左右します。繁華なエリアでは、目に入る光の点・線・面をリズミカルにデザインします。明るさの分布で落ち着きや賑わいなどエリアのイメージを創りだします。



2. 南京町地区でのガイドライン

1) ガイドラインの基本的な考え方

地域で作成し、地域で運営する自主ルールです。

2) 基本目標

神戸市夜間景観形成実施計画 南京町地区 光のコンセプト

『活気ある「にぎやかな光」の演出』に沿って、以下の3つの基本目標を定めます。

- ①異国情緒のあるまち神戸を代表する、華やかで賑やかな光を演出する
- ②南京町ならではの光の演出や、撮影したくなる夜景を創出する。
- ③営業時間後も来訪者を楽しませる、もてなしの光を工夫する。

①異国情緒のあるまち神戸を代表する、華やかで賑やかな光を演出する。

- 店舗看板などは、派手な色彩の内照看板やネオン・LED発光文字など、華やかさを感じるデザインとする。
- ランタン提灯や吉祥飾りなど、中国文化を象徴する照明手法をさらに取り入れ、異国情緒を高める。
- 門や中国獅子像などランドマークを強調するライトアップなどの演出を取り入れる。
- 春節をはじめ、ここならではの歳時記に合わせて、様々なあかりの仕掛けを工夫する。



ランタンが象徴的な街路。
(蘇州・中国)



看板やランタンの縦のボリュームが効いている。(横浜)

②南京町ならではの光の演出や、撮影したくなる夜景を創出する。

- エリアの始まりがわかる象徴的なゲート演出を細街路毎に異なったデザインを目指す。
- 鯉川筋・栄町通からもエリアがわかるようなサイン演出を目指す。
- 広場はあづまやを中心とし、にぎわいのあかりづくりを工夫し、さらに撮影スポットとしての魅力アップをはかる。



ランドマークとなっている長安門
(南京町・神戸)



仮設のゲートが華やかさを高める。
(チャイナタウン・シンガポール)

③営業時間後も来訪者を楽しませる、もてなしの光を演出する。

- 1階店舗は可能な限り営業終了後も室内のあかりが漏れるよう工夫する。
- 2階以上の店舗や居室に関しては、タイマーなどを使用した疑似漏れあかりの工夫を目指す。
- サブゲート演出・ランドマークのライトアップにより、エリアイメージをキープする。
- 広場へのスポットライトなど、夜間の来訪者の「記念撮影」に配慮したあかりの仕掛けを検討する。



閉店後も人がいるように2階のあかりをタイマー制御。(倉敷・岡山)



あづまやは神戸を代表する撮影スポットの1つ。(南京町)







光があるので自然発生的にダンスのメッカになった地下街の広場。
(第2ビル・大阪)

3) 適用区域

: 南京町沿道景観形成地区

4) エリアの構成とエリア毎の演出イメージ



記号	エリア名	光のコンセプト	照明手法・演出イメージ
	光のゲート サブゲート景観	<ul style="list-style-type: none"> 視線を誘導し、エリアイメージを感じさせる結節点らしい光演出 にぎやかで豪華な印象を創る 細街路の視認性を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 門のライトアップ カテナリー型のサブゲートデザイン 彫刻やオブジェのライトアップ 周辺建物の照明演出 「特別の日」の工夫（カラー変化等）
	メイン街路周辺 南京東路・南京西路 南京北路・南京南路	<ul style="list-style-type: none"> 連続性のある華やかな光 元気で色彩にあふれた光 チャイナタウンらしさのある光 営業時間終了後にも配慮されたあかり 	<ul style="list-style-type: none"> 耐久力のあるランタン装飾の日常化検討 看板やネオン装飾の工夫 夜間にも映える演出（シャッター絵画や縦型連灯提灯、ライン装飾等）
	細街路	<ul style="list-style-type: none"> 連続性のある華やかな光 安全安心の確保 	<ul style="list-style-type: none"> カテナリー型（吊りこみ方式）のゲート照明（ストリングス仕様など）
	南京町広場	<ul style="list-style-type: none"> あづまやを中心とする、にぎわいのあかり。撮影スポットとしての光 広場上空や路面を活かした光の効果 舞台空間のような中心感 営業時間終了後にも配慮されたあかり 	<ul style="list-style-type: none"> あづまやや彫刻の日常的ライトアップ 広場路面へのスポットライトなど 広場を夜景スポットに進化させる照明 周辺店舗の装飾強化、点灯時間延長。
	エリア誘導街路	<ul style="list-style-type: none"> エリアを感じさせ、誘導するあかり 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道照明の見直し（中国風デザイン） 歩道照明の色温度（3000K）
	エリア全域共通	<ul style="list-style-type: none"> 飲食街らしい色温度の店舗照明 電球色（2700K～3000K） チャイナタウンらしい装飾照明 華やかな光の点在 細街路の安全安心の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 店舗ファサード照明の点検と見直し 1.色温度（店舗内 2700K～3000K） 2.看板デザイン 3.細街路の暗がりなくす

5) ガイドライン項目、エリア毎の演出イメージと適応例

■店舗ファサード・看板・装飾

・建物2階以上に設置する店名等の広告物の形態等は、内照式縦長タイプとするよう努める。



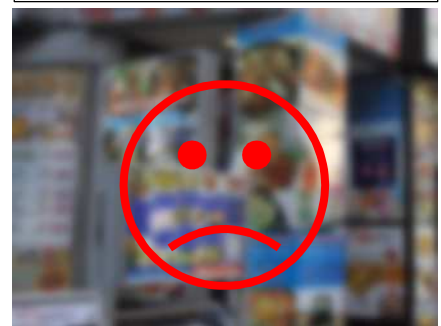
・LEDやネオン管を使用する等、輝度の高いグラフィカルな意匠を心掛ける。



・開口部の形状や格子デザインの工夫等により室内からの灯りを夜間景観の形成に生かす。

・ランタン・提灯や吉祥飾り等、中国文化を象徴する照明手法をさらに取り入れ、異国情緒を高める。

・紙やラミネート看板を煩雑に貼ることを避け、上質な景観の形成に配慮する。



■閉店後の夜間景観配慮

・特徴的な建築意匠やシンボル等をライトアップすることで、閉店後の夜間景観の形成に寄与するよう心掛ける。

・閉店後も店内への透過性を持たせて点灯時間を延長する等、夜間景観に配慮する。21時までの点灯を目標とする。

・閉店後の屋外広告物の点灯時間を延長する等、夜間景観に配慮する。



・シャッターへの装飾をすることで、閉店後も賑わい感を確保できる。

・閉店後の装飾照明の点灯時間を延長する等、夜間景観に配慮する。



ランタンなどが点灯していれば、まちの好感度は大幅アップ！

5Wの光源3個を一晩中点灯しても、電気代はたったの61.5円/月！
(1日6時間点灯として)

5) ガイドライン項目、エリア毎の演出イメージと適応例

■ランドマーク演出

・各ゲートは閉店後もライトアップし、閉店後もエリアの散策や記念撮影ができるよう配慮する。



・彫刻やオブジェは閉店後もライトアップし、エリアの散策や記念撮影ができるよう配慮する。



・カラーライトアップが可能な機材を取り入れた場合は、KOBELIGHTアップDAYとリンクしたおもてなしの色彩をプログラムする。



■色温度の管理

・寂しいイメージの白色の照明の使用は控え、暖色系の照明（電球色、LEDにもある）にするよう努める。



← 右が暖色系

「電球色」「2700K~3000K」と書いてあります！

その他（今後のガイドライン候補）

■その他

夜間の点灯時間延長の可能性を検討する。（まちなみ協定 等）



イベント期間の再設定（延長）



外壁へのパブリック照明（振興組合備品）の充実や、取り決めの検討。



6) 今後の検討事項

1. 周辺公共照明の色温度点検改修。



2. 道路上照明に関する規制緩和の検討。



3. 大丸前交差点・栄町通りからの誘導サインを整備を検討していく。



従前



従後



従前



従後





従前



従後



KOBEライトアップDAYに合せ、門の色が変化。(平時は電球色)

従前



従後

日常的に
にぎわいの
ある広場へ

スポットライト
で広場を
明るく！



路面ライトアップ

神戸観光の
撮影スポット
として

広場に立つ
人や車などを
フォトジェニック
に！



従前



従後



オリジナルのオブジェを広場に設置。
撮影スポットとしての魅力をさらに高める。



既存防犯灯を利用し、街路毎のデザイン
でシンボルを設置する。

例) 澳門街

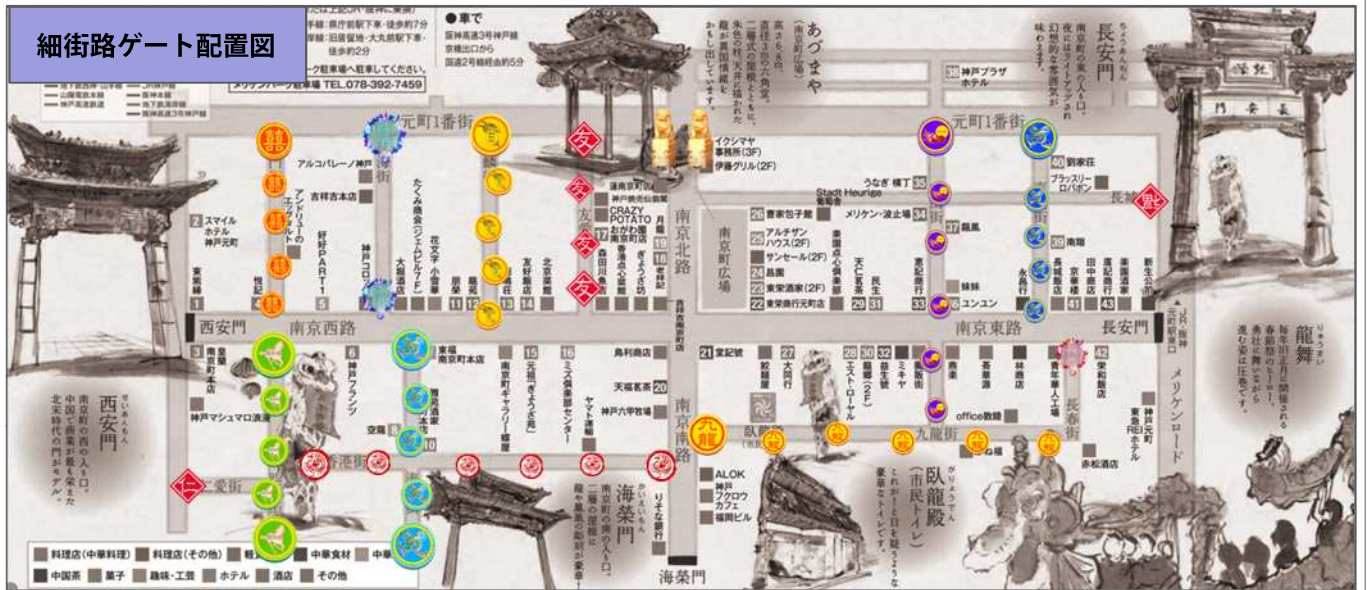
従前



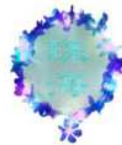
従後



各街路のモチーフ (案)



東龍街
東を守る青龍 (青)



珠海街
「花」のお出迎え



中山街
蝶と雲のシンボル



澳門街
「ダブルハピネス」のお出迎え



北門
阿吽の獅子が見守るゲート



仁愛街
「仁愛」の文字が輝く
もしくは「白虎」



友愛街
「友愛」の文字が輝く



跑馬街
跳躍する「神馬」



麒麟街
神獣「麒麟」の跳躍



海龍街
海の「ドラゴン」 (青緑)



香港街
南を守る「朱雀」



長春街
「花」のお出迎え



九龍街
「九龍」の文字が輝く

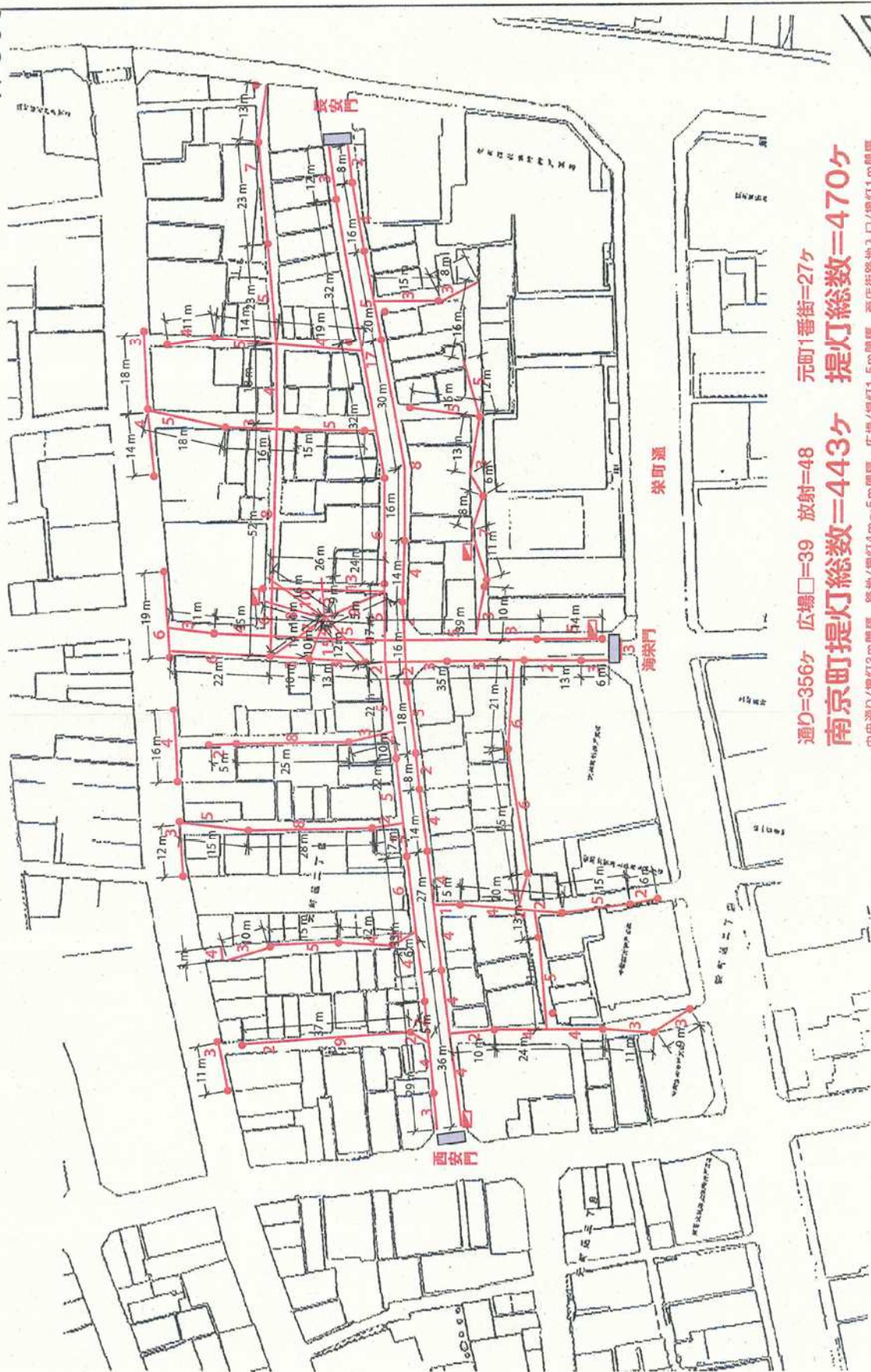


長城街
「福」の文字が輝く



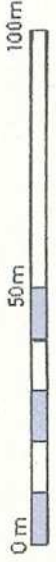
縦長のシルエットで、
看板とのリズムをつくる。
オリジナルのビニール製を検討。

南京町/LED提灯配置図
1/900



通り=356ヶ 広場=39 放射=48 元町1番街=27ヶ
南京町提灯総数=443ヶ 提灯総数=470ヶ

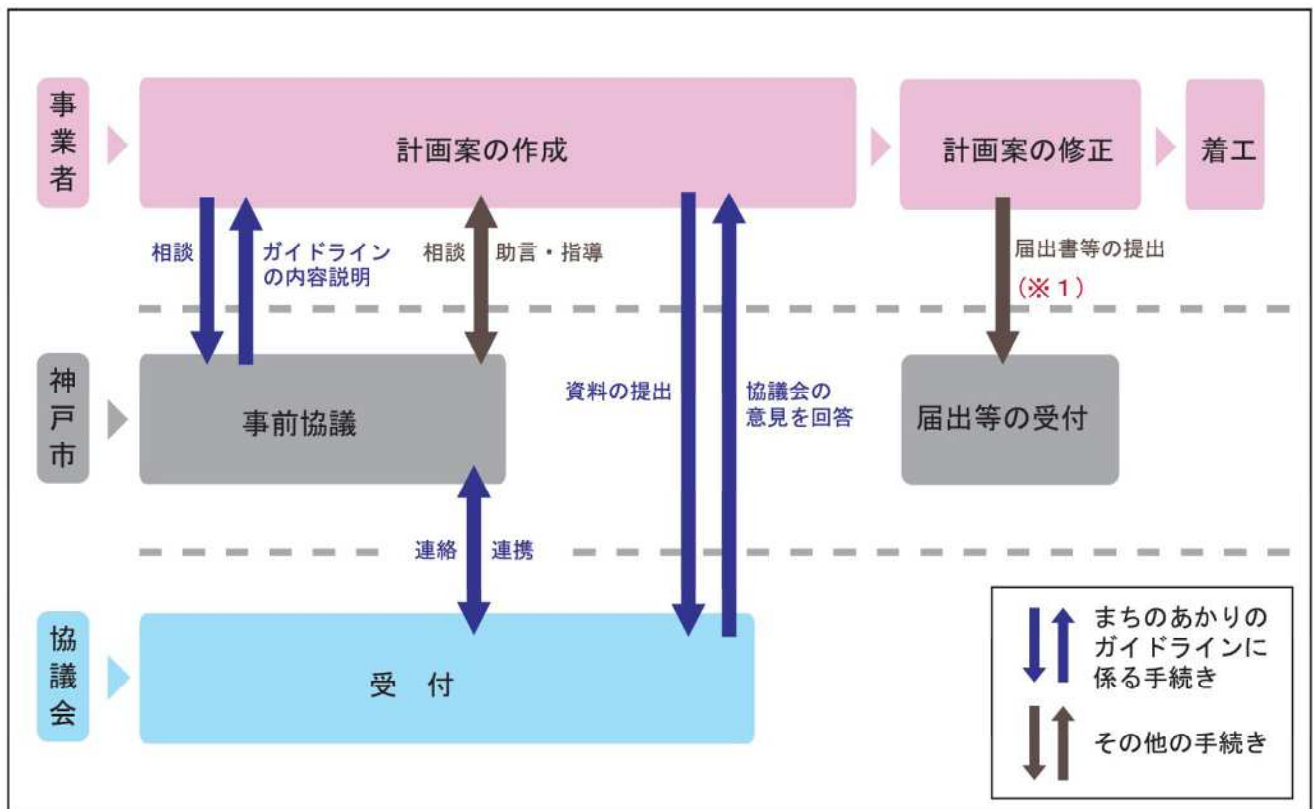
中央通り/提灯3m間隔 路地/提灯4m~5m間隔 広場/提灯1.5m間隔 商店街路地入口/提灯1m間隔



S = 1 : 1000

3. ガイドラインに係る協議の手続き

まちのあかりのガイドラインに係る協議・手続きは、以下の流れで行われます。
協議などで時間を要する場合がありますので、なるべく余裕を持った対応をお願いいたします。



(※1) 景観計画区域内における行為の届出等

本ガイドラインの対象エリアは、景観法に基づく景観計画区域（南京町沿道景観形成地区）に指定されています。

下記の行為を行う際は、本ガイドラインに配慮してください。

建築物	建築物の新築、増築、改築、移転 外観を変更することとなる修繕・模様替・色彩の変更
工作物	工作物の新築、増築、改築、移転 外観を変更することとなる修繕・模様替・色彩の変更
宅地の造成 その他の土地の 形質の変更	高さ1.5mを超えるのりを生ずる切土または盛土を伴う土地の 形質の変更
木竹の伐採	樹高10m以上または地上1.5mの高さにおける幹の周囲が1mを超える木竹 の伐採
屋外広告物	神戸市屋外広告物条例の許可申請が必要となる屋外広告物の掲出

4. 南京町景観形成協議会の紹介

異国情緒あふれるまちなみが多くの来街者を魅了する、神戸を代表するまち「南京町」。

南京町景観形成協議会は、当地区の個性をさらに伸ばし、国際港都神戸のシンボルにふさわしい、都心商業地としての景観形成を図るために設立されました。

平成3年の設立以降、観光トイレ「臥龍殿」の整備、案内サインの設置、広場や電柱の美装化、地区内での建築計画等に関する調整などの景観形成に取り組むとともに、景観形成市民団体として他の地域団体との情報交換や連絡調整など、景観形成に関する広報啓発活動を進めてきました。

平成23年からは、神戸らしい夜間景観にさらにみがかきをかけ、「デザイン都市・神戸」の都市ブランド力を高めるため、「神戸市夜間景観形成実施計画推進委員会」にも参画、関係者が連携した取り組みを進めています。



臥龍殿



■ お問合せ先

神戸市：都市局まち再生推進課(景観担当) TEL：078-595-6725

協議会：南京町景観形成協議会 事務局 TEL：078-332-2896

